

地方創生☆政策アイデアコンテスト2015

# 未来につなげる 新商品プロジェクト！

～高校生と商店街のコラボでみんなを元気に～

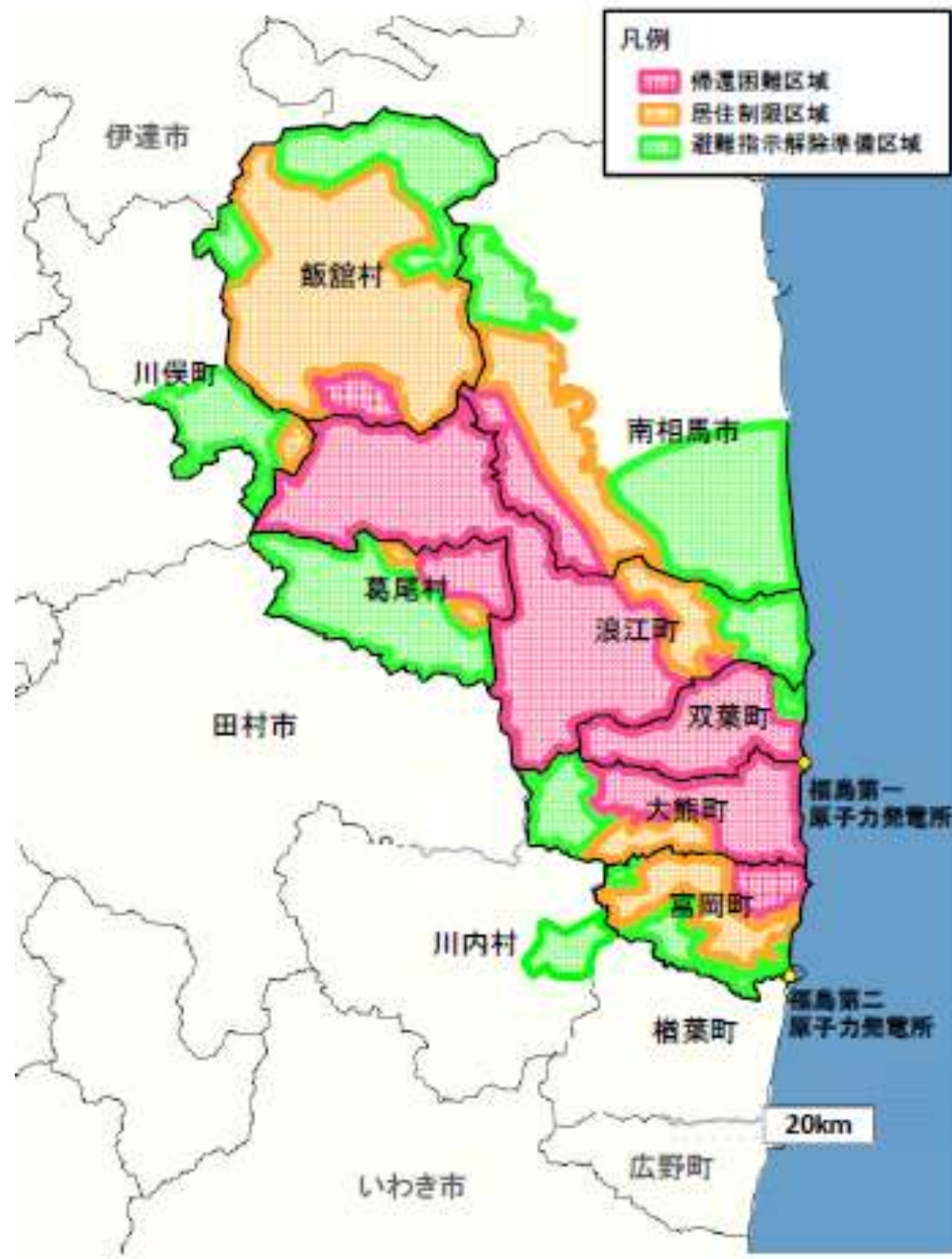
福島県立ふたば未来学園高等学校

1年生・生徒会副会長

高橋 涼花



富岡町の桜の名所「夜の森の桜」



# 私の想い

私は、ふたば未来学園に通っています。ふたば未来学園は、双葉郡に今年4月に新しく開校した学校です。

元々は富岡町に住んでおり震災があつてからは、避難して須賀川市に住んでいました。現在は、広野町にある学校の寮に住んでいます。

私は、避難したもののこの生まれ育った地域が大好きです。そんな大好きな地元を元気にしたい、自分を育ててくれたこの地域の復興に携わりたいという想いがありふたば未来学園で生徒会に入りました。

生徒会では、避難していて休校になってしまうサテライト校との交流はもちろん、地域のお祭り「ふたばワールドin檜葉」で各校の気持ちを伝えるブースを設けて、自分達で作ったTシャツや、ステッカーなどを販売しました。こういった地域との交流はとても大切にしています。

この今回のアイデアを私たちが実施し、持続して町を元気にしていけたらと思います。

高橋涼花

(左) 双葉郡で震災後再開したお祭り「ふたばワールド」で、避難で休校になってしまう地域のサテライト高校に呼びかけて、一緒にブースを出しました。(2015年10月10日)

(右) 生徒会での活動についてご紹介いただきました。(朝日新聞、2015年9月12日)



**見つけた居場所、生徒会活動**

いま No.965  
子どもたちは  
戻った、ふるさと ⑦

7月20日、福島県広野町にある県立ふたば未来学園高校で、受験を経えた中学3年生の体験入学があった。集まった約240人の多くが、原発事故で避難している。生徒会のメンバーが学校紹介をした。日常風景を5分間の動画で見せた後、編集を担当した高橋涼花さん(16)は、中学生に受験インタビューをした。「ぶっちゃけ、この学校の第一印象は？」「わりたいな生活は？」。その前の校長先生の話が思ったよりも長く、時間が取れるか冷や冷やしたが、笑顔でマイクを向けた。前日に「先生の話と、動画だけでは中学生もつまらない」と企画した。

動画の背景にはお気に入りの音楽を流した。人気ロックバンドback numberの「SISTER」前に顔み出そうとする女性への応援歌に思えたからだ。

当時は高橋涼花さん(16)は、中学生に受験インタビューをした。「ぶっちゃけ、この学校の第一印象は？」「わりたいな生活は？」。その前の校長先生の話が思ったよりも長く、時間が取れるか冷や冷やしたが、笑顔でマイクを向けた。前日に「先生の話と、動画だけでは中学生もつまらない」と企画した。

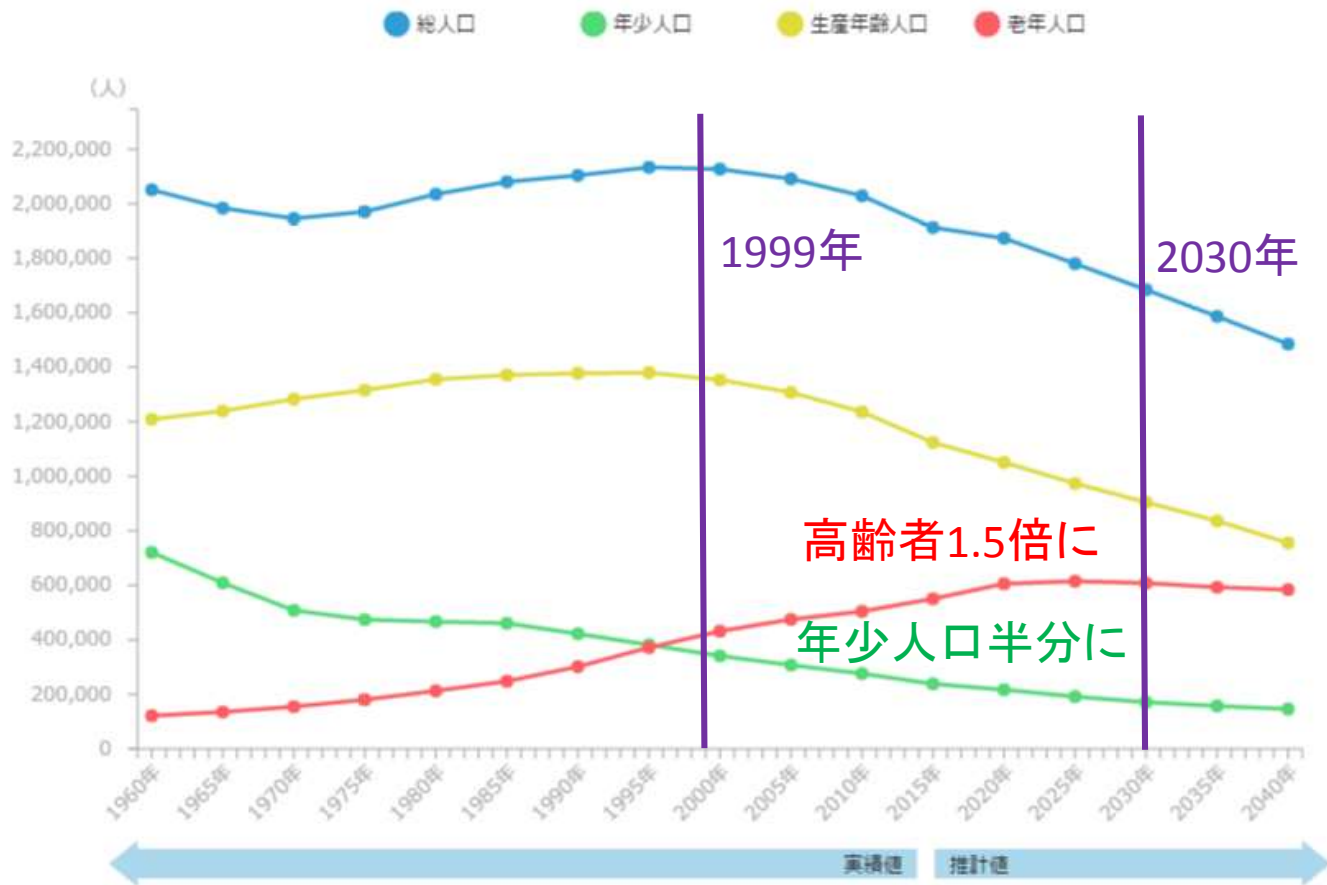
原発事故で富岡町を離れた高橋さんは中学1年のとき、避難先の学校を3カ月ほど休んだことがある。ふたば未来に入り、寮の友達と「転校先の学校に居場所はなかったよね」「仮設住宅は狭いから、音を出すのをいつも気にしてた」と、思い出話で盛り上げた。不登校だった別の生徒は、なぜ学校に通えなくなっただか聞いた。「みんな同じだったんだ」と気づいた。力を入れているのが、檜葉町で10月にある復興イベントへの参加だ。今月5日に避難指示が解除された町だ。事故前、郡内には五つの高校があった。避難先の仮設校舎で授業を続け、2017年4月から休校となる。「事故がなければ、きっと私もこれかに通っていた。各校の生徒と協力して5校の様子をパネルで紹介するほか、芸能人を招いてのトークショーも計画。高橋さんは、参加依頼の手紙を書いている。

生徒会で活動することは入学前から決めていた。「新設校なので伝統も学風も自分たちで決められる」。11月にある初めての文化祭では、生徒たちでロック・コンサートを開きたいと思っている。「先生たちは特別授業の発表会にしかっていているけど、絶対に実現させたい。だって主役は自分たちなんだから。(高橋さん)

高橋涼花さんは生徒会の役員選挙で副会長に立候補するつもりだ＝福島県広野町

# 震災でより深刻になった、人口減少・少子高齢化

## 人口推移 福島県 (RESASより)



## 震災前の双葉郡の人口増減

### 2005年～2010年 (RESASより)



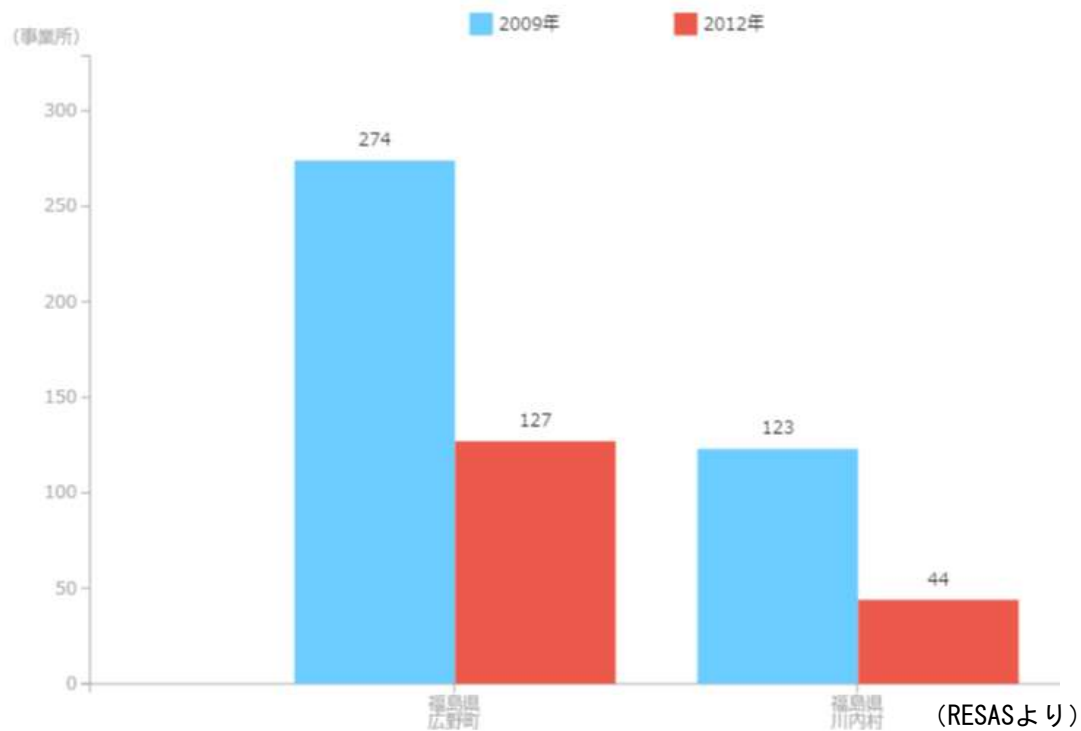
① 浪江町	-3.20%
② 双葉町	-3.10%
③ 大熊町	5.05%
④ 富岡町	0.50%
⑤ 楡葉町	-5.51%
⑥ 広野町	-1.25%
⑦ 葛尾村	-5.19%
⑧ 川内村	-9.08%

- 震災前から少子高齢化が進んでいた。
- 原発事故からの避難で、人口減少が加速。

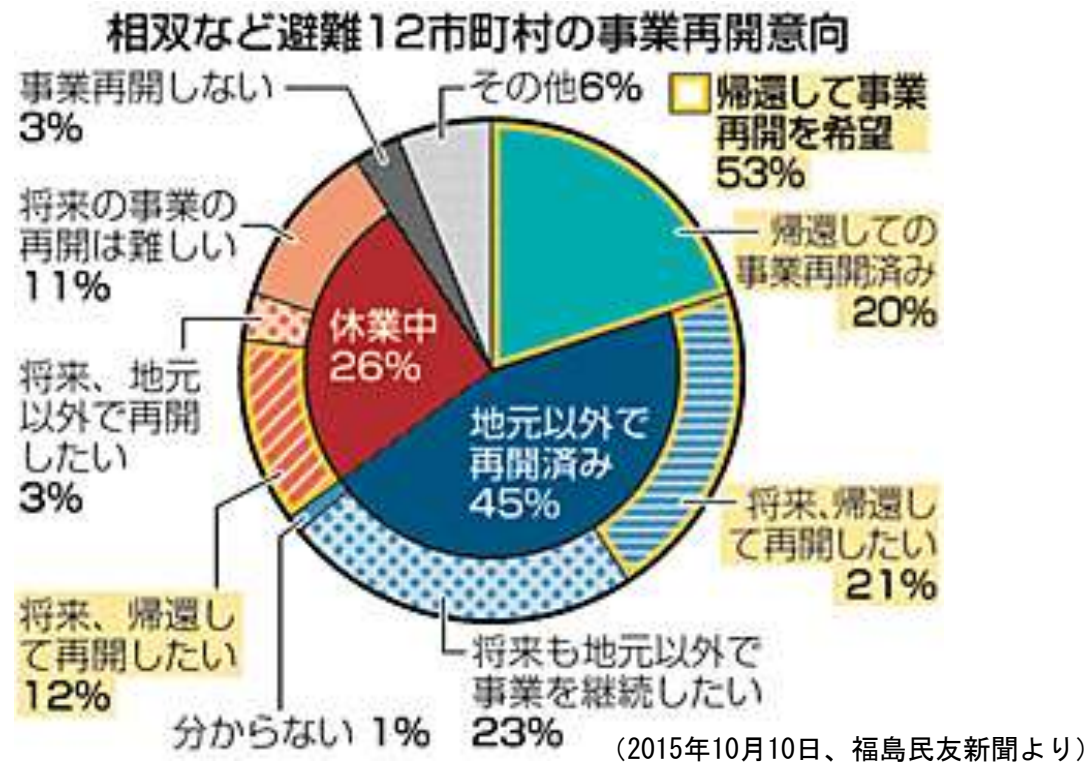
(広野町の震災前の人口約5000人のうち、帰還した住民は約半数)

# 復興に向かって挑戦している双葉郡の事業者の状況

## 事業所数（双葉郡内で2012年に帰還していた町村）



## 地元で事業再開を希望する割合



- 地元以外で再開したり、休業中の企業もあるが、地元で再開したいという企業が53%と半分以上居る。
- 福島相双復興官民合同チーム\*が、地域の8000社を訪問中！事業を再開する支援をこれからも強化する方針のようだ。

\*国や企業の出向者計140人で双葉郡などの約7900事業を訪問して復興の支援をするチーム。事務局長は「抜本的な支援策を考え、帰還して事業を再開する事業者を増やしたい」と話されている。

# 住民の生活を便利にする商業施設の開店

## 広野町の復興のための住民アンケート結果（2013年12月）

(1) 現在の生活でお困りのことは何ですか。(複数選択可)

①日常生活用品などを購入する小売店がない、少ない	① 249件 (77.8%)
②医療機関が少ない、または必要な診療科目がない	② 198件 (61.9%)
③必要な介護サービスが受けられない	③ 16件 (5.0%)
④公共交通機関（JR、バスなど）が不便である	④ 91件 (28.4%)
⑤近隣に住民がいない	⑤ 97件 (30.3%)
⑥自宅の周辺に作業員宿舎があり不安である	⑥ 96件 (30.0%)
⑦その他（ ）	⑦ 46件 (14.4%)

(1) 広野町の復興に際し、必要と思われることを選んでください。(複数選択可)

①農林水産業などの第一次産業の復興（新たな農業基盤の創出）	① 170件 (19.4%)
②町内の商工業などの復興（商業環境の充実）	② 560件 (63.9%)
③若い世代の雇用を確保できる新たな産業の創出や企業誘致	③ 559件 (63.7%)
④再生可能エネルギーの拠点づくり	④ 159件 (18.1%)
⑤学校等の教育環境の充実	⑤ 271件 (30.9%)
⑥大学等の研究施設の誘致	⑥ 76件 (8.7%)
⑦高齢者施設や医療施設の充実	⑦ 433件 (49.4%)
⑧公営住宅や住宅建設の促進	⑧ 190件 (21.7%)
⑨人口増加を目的とした住宅分譲地の整備	⑨ 262件 (29.9%)
⑩その他（ ）	⑩ 39件 (4.4%)

## 広野町にイオンが出店

**AEON NEWS RELEASE** 木を植えています  
AEONがイオンです

2015年4月24日  
イオンリテール株式会社

『全町民の皆様 幸せな町・復興に向け ふる里にて共に歩みたいと願っております』  
**広野ショッピングセンター（仮称）を新設いたします**

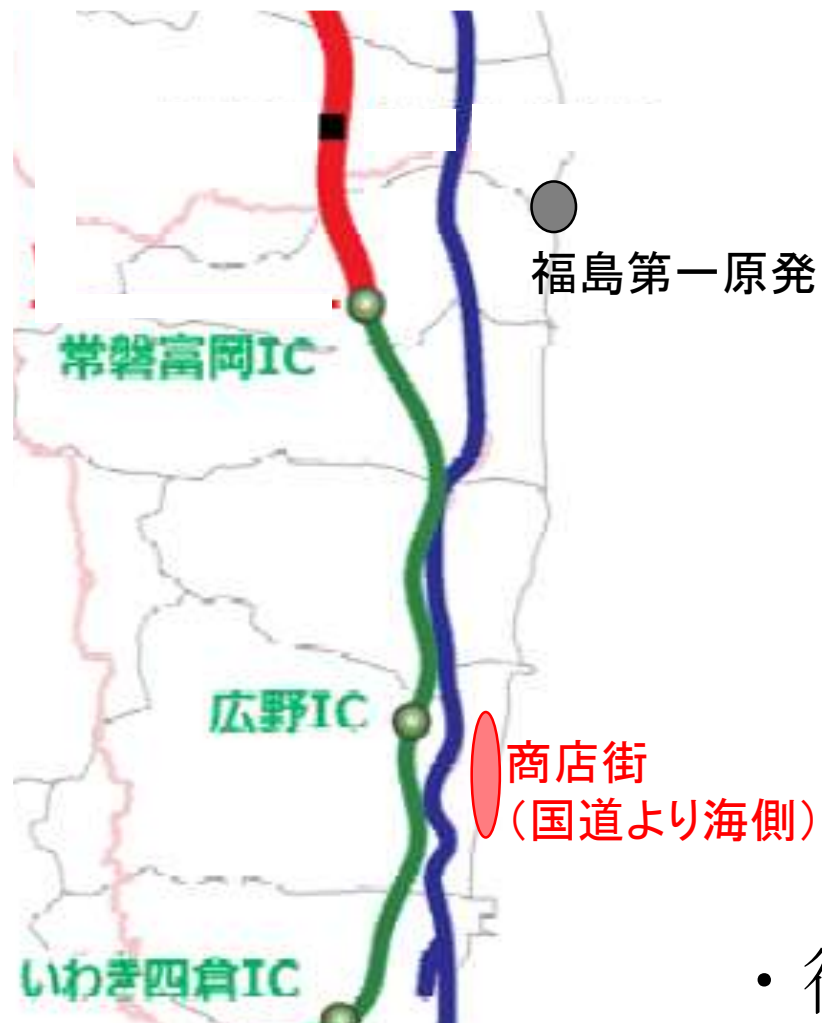
広野町とイオンリテール株式会社は、本日、「広野町における商業環境整備に関する覚書」（以下、本覚書）を締結いたします。  
本覚書の目的は、広野町民の帰町促進のため、住民サービス向上の一環とした商業環境整備等に関し相互協力し、さまざまな取り組みを進めていくものです。  
この度、具体的な事業として、広野町が店舗を設置し、イオンリテールがその核店舗として出店する、公設民営の複合商業施設「広野ショッピングセンター」（仮称）を今夏に新設致しますのでご案内申し上げます。



- 町にイオンができることは、便利な一方で、私たちは商店への影響が不安

# 1日約2万台の車が通過！！！！

## 国道6号線と、常磐自動車道の交通量

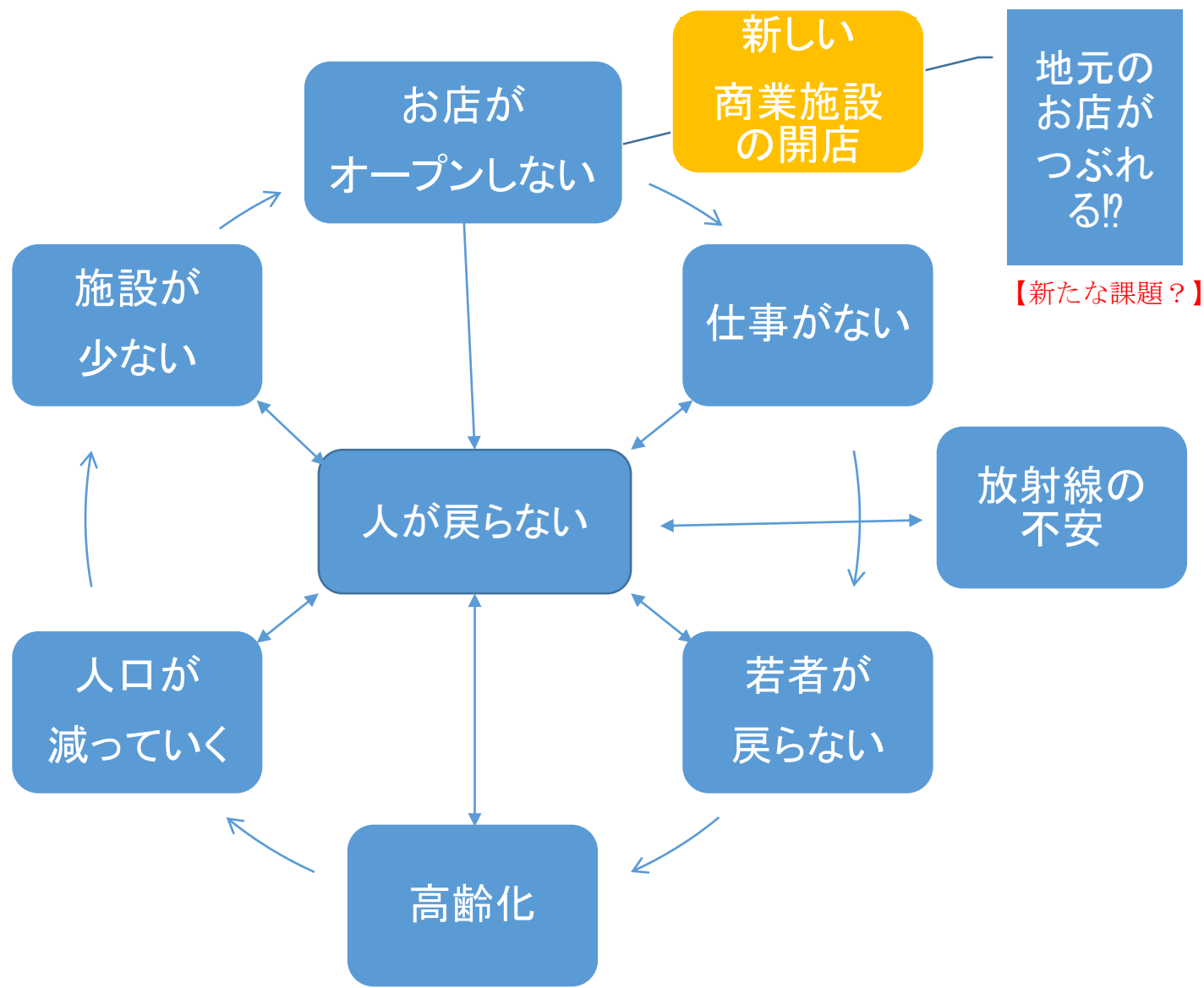


国道6号線 10,300台／一日、広野町  
常磐自動車道 9,400台／一日、広野町



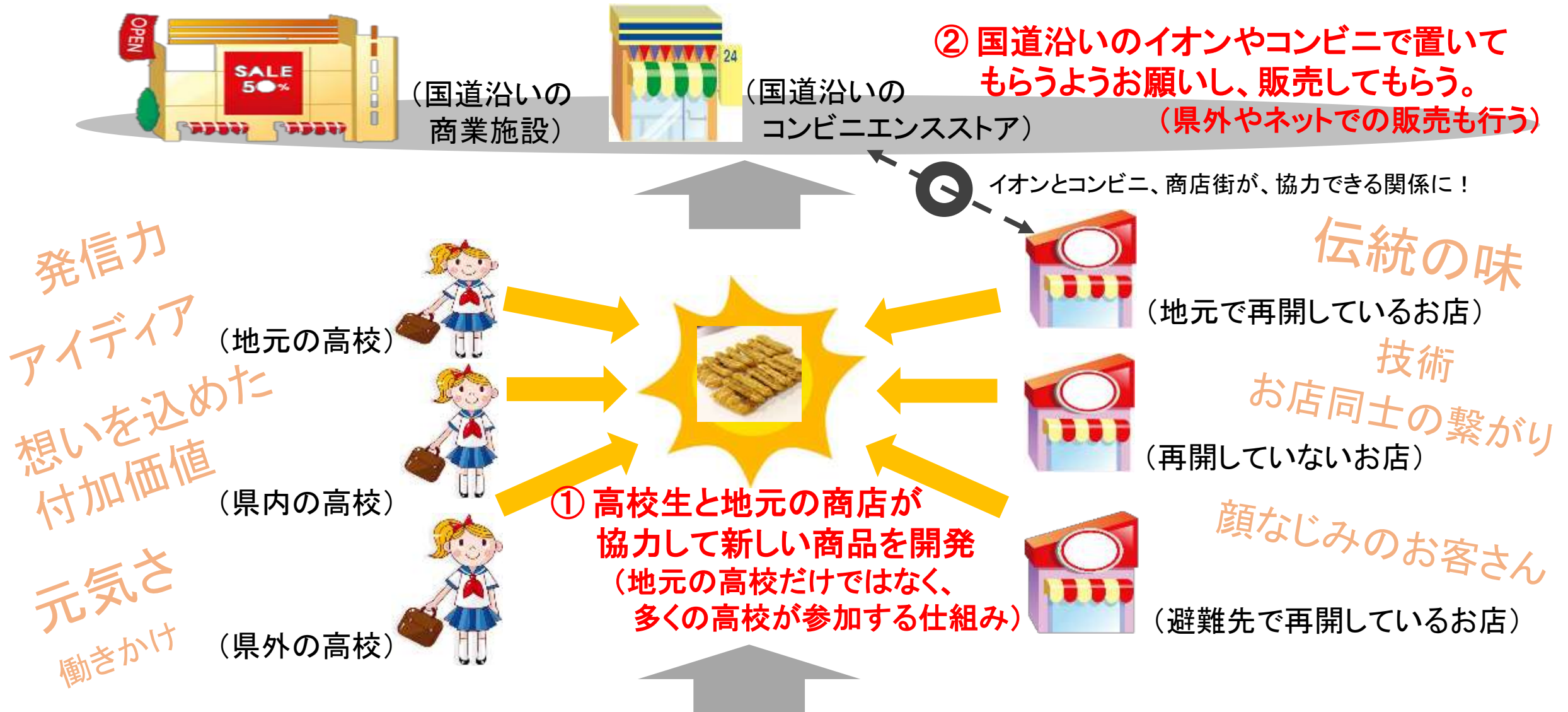
- ・復興の仕事で通過する人たちにも、地元の味を知ってほしい。復興の仕事で通過する人たちが買ってくれたら、地元の商業の復興につながる。

# 地域の復興をめぐる「悪循環」



- 様々な課題が複雑に絡み合っている。全てを解決しなければ復興は出来ない。復興は10年単位で考えて進んでいる。現在はまだ途中の状況。
- 今回は、悪循環を断ち切るために「お店がオープンしない」という課題に着目した。
- なぜなら、広野町民のアンケートで「復興に際し、必要と思われること」を聞いたところ、「町内の商工業などの復興（商業環境の充実）」が63.9%で最も多かったため（2013年12月）
- 復興の仕事で通過する人たちは約20000台いるが、地元の商店はこの人たちをお客さんにできていない。
- 一方で、広野町はイオンができる。しかし、いつも私たち学生が気軽に立ち寄りお世話になっている地元商店街への影響が心配になった。イオンによって、地元のお客さんを取られたり、営業の危機があるのではないか。そういった理由で地元のお店がなくなるかもしれない。  
【新たな課題?】

# 高校生と商店街のコラボの力で「復興の隙間」をうめる



国や県からの支援

**③ 地元の商店と高校生のマッチングを国や県が行う(福島相双復興官民合同チーム)**  
商品開発の費用の補助も少しする。



# みんなを元気に！（このプランで生み出す効果）

事業者の  
方にとって

① 地元の商店街が、高校生とコラボして新しい商品を生み出したり、国道沿いの商業施設で売ることによって利益も増え、**活性化**する。

② 事業再開を迷っている事業者にとって、高校生とコラボしたり、話すことで、**事業再開への小さいきっかけ**を与えることができる。

③ 地元の商店街と、新しく出店するイオンが、協力関係になり、お互いに利益が出る。

お客さんに  
とって

④ 町の人たちにとって、地元の商店街が残り、日常生活に必要なものを買う場所も増え、暮らしやすくなる。

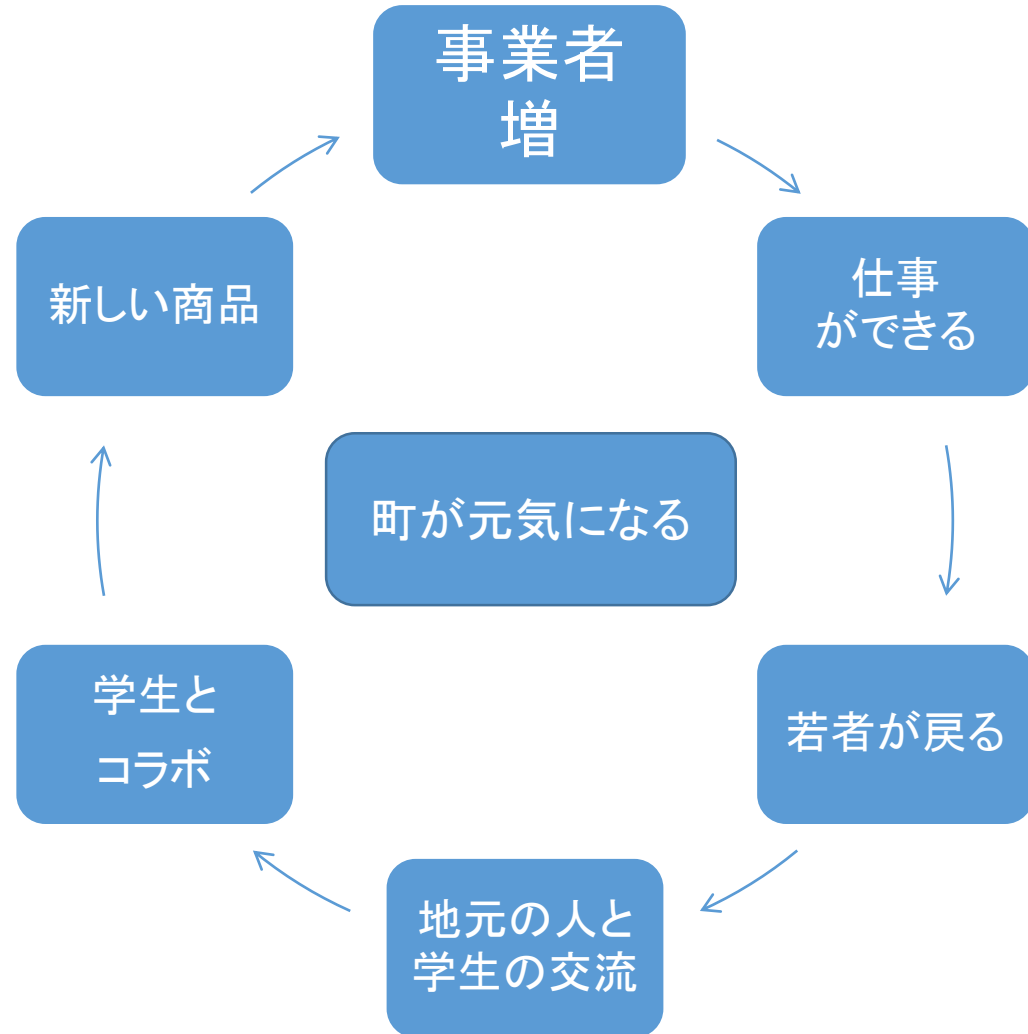
⑤ 国道を通過していた復興の仕事をしている人たちにとって、**双葉郡の伝統の味**を楽しめるようになる。

高校生に  
とって

⑥ 高校生にとっては、**愛着のある地元商店**も活性化し、買い物する場所が増えより便利になる。コラボすることで成長もする。

# 20年～30年後にもこの計画が残り 伝統や商店が活気づいた元気な町に必ずする。

地域の復興をすすめる「好循環」を生む



商店の方



町長さん



商工会長さん